

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2022年度版)

11 住み続けられる
まちづくりを



人文社会学部の学部生が「難民支援はじめてガイド」を作成しました



活動の概要	<p>2022年9月、人文社会学部国際文化学科山本ゼミ所属の学部3年生が、難民問題の現状や名古屋圏での支援団体の情報などをまとめた「難民支援はじめてガイドin名古屋」というパンフレットを作成しました。</p> <p>【学生たちのコメント】</p> <p>私たちは、2022年の2月末以降、ロシアによるウクライナ侵攻によって避難民の方が来日されていることから難民支援について興味を持ち、難民支援という点から多文化共生を考えることをテーマにゼミの6人のメンバーでこの4月から活動を始めました。</p> <p>難民に関するイベントに参加する中で、支援団体の方々から「学生には難民問題についての情報を広めてほしい」という声を頂き、多くの人に難民問題に関心を持ってもらうため、支援団体と難民問題に関心を持つ人々をつなぐパンフレットを作成しました。難民問題の現状について理解しやすいこと、そして具体的なアクションに繋がりにくいことに拘り、難民に関する基本情報、名古屋市内の支援団体の紹介、支援方法などを掲載しています。</p> <p>また、2022年11月10日に、私たちは大学の講義内で「難民問題ワークショップ」を開催しました。参加者に難民問題への理解を深めてもらい、自分なりの意見を持ってもらうことを目的とし、まずは難民認定や支援状況についての説明をし、その後2つのワーク(ディベートとシミュレーション)を行いました。ディベートでは、自分なりの意見を持ってもらうことを目的に、「日本は難民受け入れを今後拡大していくべきか」というテーマで議論をしてもらいました。またシミュレーションでは、自分事として捉えてもらうことを目的に、シリア難民が日本に来るまでの困難を考えてもらいました。</p> <p>参加者へのアンケートからは、ワークショップを通じて難民問題への関心度や理解度が上がった人が多いことがわかり、難民問題に関わるきっかけ作りができたのではないかと考えています。参加者から出た多様な意見を知ることで、私たちが新たな考え方を学ぶことができました。</p>
活動の時期	2022年9月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/student/11291500/

人文社会学部の学生が中区安心・安全・快適なまちづくりフェスタ2022に出展しました



活動の概要	<p>2022年9月23日、名古屋市栄エリアのオアシス21で開催された「中区安心・安全・快適なまちづくりフェスタ2022」に、人文社会学部国際文化学科の山本ゼミが「遊んで学ぼう！多文化共生ってなに？」と題したブースを出展しました。当日は台風接近に伴う大雨にもかかわらず、3年ぶりの中区フェスタの開催に多数の人が来場し、多文化共生ブースではゼミ生が考案した2つのゲームを多くの方々楽しんでくれました。</p> <p>【神経衰弱ゲームチーム】</p> <p>私たちのチームは中区に多く暮らしている中国、韓国、ベトナム、ネパール、フィリピン、ブラジルの人々の国の文化を紹介するために、これらの国々と日本を合わせた7ヶ国の伝統食や伝統衣装について遊びながら学ぶ、神経衰弱ゲームを考えました。当日は、多くの来場者の方がブースを訪れ、神経衰弱ゲームを楽しんでくれました。なかには勝負に勝ちたくてもう一度挑戦したいと、再度ブースに来てくれるお子さんもおり、一時は列ができるなど大盛況でした。</p> <p>工夫した点は、神経衰弱のゲームを楽しんでもらうだけでなく、神経衰弱のカードに書かれた各国の伝統食や伝統衣装を詳しく紹介したチラシを作成して配布したことです。これによって、来場者の方に様々な国の文化に触れてもらい、多文化共生の理解を深めたり、興味を持ってもらったりする手助けになったのではないかと思います。</p> <p>また、前に挙げた7ヶ国のうち好きな国旗を選んで、その国旗と一緒に写真撮影できるスポットも作りました。全体として、中区に住んでいる身近な外国住民の国の文化を楽しみながら知ってもらうことのできるイベントを行うことができました。</p> <p>【やさしい日本語チーム】</p> <p>やさしい日本語チームは、来場者にやさしい日本語に実際に触れて考えてもらうための「体験型紙人形劇」を実演しました。その人形劇のストーリーは、日本語が苦手な方が、生活するうえで目にする看板などの意味がわからずに困っているところを、来場者に看板の文章をやさしい日本語に変換してもらって、助けてもらうという、来場者も参加し体験してもらう形にしました。やさしい日本語をより身近に感じてもらうことを目標にして、病院や学校など、多くの人が過ごす日常生活にフォーカスを当てて、いくつかのパターンのお話を制作しました。</p> <p>ブースには老若男女問わず多くの方が来てくれて大変盛り上がり、運営していても楽しかったです。しかし、そこで気づいたことは、やさしい日本語の認知度は想像よりも低いということです。そのため、今回のイベントを通して、一人でも多くの子どもたちや大人の方に、やさしい日本語について、単に知ってもらうだけでなく考えてもらうことができ、とても良い機会となりました。</p>
活動の時期	2022年9月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/student/10211430/

「文化遺産の復元」パネル展とシンポジウムを開催します



活動の概要	<p>「文化遺産の復元」パネル展とシンポジウムを下記の日程で開催します。 事前参加申込は不要、入場無料となっておりますので是非ご来場ください。</p> <p><パネル展> 日 時：令和4年11月11日から18日 会 場：北千種キャンパス 芸工棟1階アトリウム</p> <p><シンポジウム> 日 時：令和4年11月13日 13時30分から15時45分 会 場：北千種キャンパス 芸工棟1階M101教室 シンポジスト：青木孝義 名古屋市立大学芸術工学研究科教授 アレハンドロ・マルティネス 京都工芸繊維大学大学院助教 古木治郎 内閣府総合事務局首里城復元整備推進室副室長 向井純子 名古屋市立大学芸術工学研究科特任助教 阿知波里紗 朱鳳亭 根市裕香 峰行彩花 芸術工学部4年生</p> <p>火災で甚大な被害を受けたパリ・ノートルダム大聖堂と首里城、そしてブータンのウォンディ・ゾン。それぞれの建物の歴史や文化遺産としての捉えられ方は大きく異なりますが、いずれも原則的には焼失前の姿に復元されます。</p> <p>文化遺産の復元については、これまでに多くの議論が重ねられてきました。復元は歴史の保全なのか捏造なのか、あるいは未来をつくるものなのか。パネル展とシンポジウムでは、これら3つの事例を取り上げ、人々の復元に対する想い、そして、文化遺産を復元することの意味を考えます。</p> <p>主 催：名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 青木孝義研究室・環境デザイン研究所 特別協力：Web展覧会「パリ・ノートルダム大聖堂と首里城」学術委員会、(公社)沖縄県建築士会</p> <p>※パリ・ノートルダム大聖堂と首里城の展示物は、Web展覧会「パリ・ノートルダム大聖堂と首里城」のコンテンツの一部を使用している。 ※Web展覧会製作学術委員会の賛同を得て、(公社)沖縄県建築士会が那覇市で開催した企画展で展示されたものを今回のパネル展のために借用した。</p>
活動の時期	2022年11月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/news/20221104-1/

芸術工学部の学部生が名古屋市選挙管理委員会と協働 で選挙参加推進のための動画を制作しました



活動の概要	名古屋市選挙管理委員会と本学芸術工学部の学生が協働で若者の選挙参加啓蒙のコンテンツを制作しました。 18歳の若者の選挙参加推進のためのオリジナルコンテンツです。
活動の時期	2022年6月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/news/20220708/

PICo project 2022 本格始動！



活動の概要	<p>本学を中心とした医療系学生と愛知県、愛知県周辺の医療者・教育施設が相互に意見を出し合い、医療系学生に新しい教育プログラムを提供し、新しい学びの場を作り出すためのプロジェクトである「PICo project (※)」が2022年度もスタートします。</p> <p>このプロジェクトは、医学生の学びたいという意欲に対して、後進により良い医療を提供してほしいという医療者の熱意で2021年度より発足しました。</p> <p>2022年度は医学生に加え、薬学部生、看護学部生を対象としたプログラムも加わり、医療系学生全体に向けたより魅力あるPICo projectに進化しました。</p> <p>詳細は PICo projectのWEBサイトをご確認ください。</p> <p>(※) PICo: Passion = 学ぶ側・教える側の熱意、Innovation = 既存の枠にとらわれない革新、Co-Creation = 学生・指導の先生方・施設による“共創”</p>
活動の時期	2022年度
関連URL	PICo project WEBサイト



SDGs将来世代創造フォーラム2022に参加



<p>活動の概要</p>	<p>本学は、2022年8月24日に吹上ホールで開催された「SDGs将来世代創造フォーラム2022」(アサヒ飲料中部北陸支社主催)に参加しました。当日は、「健康」「環境」「地域共創」をテーマに、産学官から約50のブースが出展されました。</p> <p>本学のブースには、人文社会学部曾我准教授と曾我ゼミの学生3名が参加し、「SDGs達成に向けて自分ができること」を考えるワークショップを行いました。</p> <p>また、本学のSDGsに関する様々な活動について、チラシやパネル等で紹介しました。</p> <p>【ワークショップ参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ自動車ではなく公共交通機関を使う ・異常気象、気候変動を防ぐために、エアコンと扇風機を合わせて使う ・自然災害に備え、防災に取り組む ・海洋プラスチックごみを減らすために、ビニール袋をもらわずにエコバッグをつかう ・貧困や飢餓に苦しむ人たちのためにフードドライブやフェアトレードなどに参加し、問題の解決に寄与する
<p>活動の時期</p>	<p>2022年8月</p>
<p>関連URL</p>	<p>アサヒ飲料中部北陸支社 「SDGs将来世代創造フォーラム2022」</p>



SDGs IDEA FORUM 2022で本学学生が最優秀賞、特別賞を受賞！



活動の概要	<p>本学では、名古屋市と連携して、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2022」を実施しています。</p> <p>総数25件の応募アイデアのうち、書類審査を通過した優秀8チームが参加する「SDGs IDEA コンテスト」が2023年2月26日に本学さくら講堂で開催され、本学から参加した「ばくツーリズム」（人文社会学部3年）が最優秀賞を、「濱口ゼミ」（経済学部4年）が特別賞を受賞しました。</p>
活動の時期	2023年2月
関連URL	SDGs IDEA FORUM WEBサイト



【最優秀賞】

チーム名：ばくツーリズム（人文社会学部3年）
 企画名：『なごやばく博物館（なごやばくばくぶつかん）』
 地域課題：「サステナブルな観光都市名古屋の実現」



【特別賞】

チーム名：濱口ゼミ（経済学部4年）
 企画名：『捨てられていたであろう食品を使って子どもの料理教室を開こうプロジェクトー食品ロスを削減しつつ子どものコミュニティを作るー』
 地域課題：「地域コミュニティが活性化するまちづくり」

名古屋市立萩山中学校、矢田中学校の生徒が本学人文社会学部曾我研究室を訪問



<p>活動の概要</p>	<p>2023年1月26日木曜日に名古屋市立萩山中学校から2年生6名、2023年1月27日金曜日に名古屋市立矢田中学校から2年生5名が本学人文社会学部心理教育学科曾我研究室を訪問しました。SDGsの学びが中学校でも始まるようになり、探求学習の一環としての訪問でした。</p> <p>26日に訪問した萩山中学校の6名は、はじめに自己紹介をした後で、これまでの自身の学びである「フェアトレード」についてパワーポイントを使って発表しました。発表を聞いて、いくつかの質疑応答をした後で、SDGsやESDについて事前に受けていた中学生からの質問に応えました。訪問を終えた中学生からは、後日丁寧な手紙が送られてきました。手紙には、訪問を通して学んだことがそれぞれ書かれていました。</p> <p>27日に訪問した矢田中学校の5名は、「途上国と先進国の教育事情の違い」に関して事前に提出していた項目をもとに質問し、その応答から世界の子どもの教育環境についての理解を進めてきました。矢田中学校からの依頼は、本学SDGsセンターへの問い合わせから始まりました。連絡をくださったキャリアコーディネーターの方から、SDGsに関連する諸活動をしている本学大学生とぜひ交流させたいという強い思いのもと実現しました。当日、曾我准教授の他に、昨年度からSDGsに関する取り組みをしていたゼミ生2名（関連URL①）が参加し、その取り組み（関連URL②）を話しました。また、SDGsセンターから林秀敏センター長も同席しました。後日、訪問を通して学んだことが書かれた丁寧な手紙が届けられました。</p> <p>SDGsに関連する学びは各職種で実施されていることから、こうした校種間交流が今後も増えていくことが予想されます。今回、中学生は大学生や大学教員と交流することで多くを学んでいました。同様に、大学側も中学生を通して中学校でどのような学びをしているのかを知る機会となりました。こうした学びの機会が創出されることも、SDGsに関する学びの一つの成果とも言えるかもしれません。今後こうした機会を通して、学びの形態が広がっていくことを期待したいと思います。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2023年1月</p>
<p>関連URL</p>	<p>① 本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！</p> <p>② 「SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～」の実施報告</p>



萩山中学校からの訪問



矢田中学校からの訪問

「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催



活動の概要	<p>2023年2月、本学は「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催しました。これは、環境省採択事業「教育機関と連携した地域再エネ導入促進及び地域中核人材育成研修」の一環として、経済学研究科の鵜飼教授、徳光助手とSDGsセンターが連携して開催したものです。経済学部及び人文社会学部の学生9名が参加し、再生可能エネルギーの領域で先進的な取り組みを行っている東海地区の企業や地域への視察・フィールドワーク等を行いました。</p> <p>3月には、同じ環境省主催研修に参加している全国15大学の学生との全体交流会が開催され、参加した学生から今回の研修の成果について報告しました。</p>
スケジュール	<p>Day1 (2月7日) :【講義】株式会社ウェストボックス Day2 (2月8日) :【視察&講義】おひさま自然エネルギー株式会社 Day3 (2月14日) :【視察&講義】みなとアクルス、名古屋環境局 Day4 (2月17日) :【グループワーク】中間振り返り Day5 (2月20日) :【フィールドワーク】錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト Day6 (2月22日) :【フィールドワーク】錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト Day7 (2月24日) :【グループワーク】最終振り返り</p>
活動の時期	2023年2月



Day2 おひさま自然エネルギー株式会社いなば営農発電所視察



Day3 みなとアクルス視察



Day6 錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクトの方々とのディスカッション



Day7 最終振り返りグループワーク

環境デーなごや2022パートナーシップ事業として地域 美化活動を実施



環境デーなごや2022パートナーシップ事業の一環として、2022年6月3日（金）に桜山（川澄）キャンパス周辺の地域美化活動を行いました。

当日は、生き物との共生・脱炭素社会の実現・循環型社会の構築などをテーマに、それぞれの地域で清掃活動や環境学習などを実施する「地域行事」として、SDGsセンターの林センター長を含む教職員と学生13名が、キャンパス周辺の清掃を行いました。

環境デーなごやの詳細については、以下のサイトをご覧ください。

[「環境デーなごや」のホームページ](#)



人文社会学部現代社会学科・社会調査実習報告書『水環境を中心とする市民・市民団体・行政の関わり方一庄内川・山崎川・鳥川・恵那峡を事例に一』の刊行



活動の概要	<p>人文社会学部現代社会学科では、毎年、社会調査実習という授業を開講しています。各担当教員の指導のもと、中京圏の様々な社会問題の現状と課題について、社会調査を行っています（例：メディア報道、地域コミュニティ・家族、労働、都市…）。このうち、馬渡班では中京圏の水環境が誰によって、どのように守られているのか、その現状と課題を、地域資料の整理・読解、現地フィールドワークや関係者への聞き取りに基づいて調べました。</p> <p>事例としては、学生の関心に基づき、豊かな自然を持つ広域的な都市河川である庄内川、生物多様性を目指した市民活動が行われている都市河川の山崎川、ホテル保護活動で著名な鳥川、水辺を活かした観光資源を有する恵那峡を選定しました。調査の成果について、この度、報告書『水環境を中心とする市民・市民団体・行政の関わり方一庄内川・山崎川・鳥川・恵那峡を事例に一』を取りまとめました。</p> <p>近年では、持続可能なより良い水環境を目指すための連携が行政、市民団体、地域住民等の中で志向されていますが、他方で水環境は人々や社会との関わりがなで、治水・防災・生物多様性・産業など、多様な価値観や人々の活動を映し出し、せめぎ合う場であり続けていることを学生たちは認識しました。また、人々がとりわけ都市社会で生活するなかで、自然環境の存在や環境との関わりが生活の後景に退いていることも改めて認識しました。特に後者の、市民の水環境に対する関心・無関心については、「市民の無関心」がどのような状態を示すのかを掘り下げながら、今年度も継続して調査していきたいと考えています。</p>
活動の時期	2022年4月から2023年4月まで
担当教員	馬渡玲欧（人文社会学部現代社会学科講師／SDGsセンター員）
関連URL	名古屋市立大学人文社会学部現代社会学科

名古屋市立大学人文社会学部
現代社会学科社会調査実習報告書
2022年度 第3分冊

水環境を中心とする
市民・市民団体・行政の関わり方
一庄内川・山崎川・鳥川・恵那峡を事例に一
〔 2022年度・現代社会学科調査実習報告書 〕

第3分冊

名古屋市立大学人文社会学部
現代社会学科

SDGs IDEA 研究会を開催



<p>活動の概要</p>	<p>本学は、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2022」を名古屋市と共催しています。この活動の一環として、2022年12月14日に、SDGs IDEA 研究会を開催しました。</p> <p>当日は、SDGs IDEA FORUM 2022にエントリーしている名古屋市内の学生36名が参加しました。賛同企業による企業紹介、SDGs IDEA FORUM 2021最優秀賞受賞チーム（南山大学 ロバートゼミ「フードロス×教育」）によるプレゼンテーションの後、参加学生同士の交流会が行われ、1月15日提出期限のアイデアシート作成に向けた情報交換が行われました。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2022でアイデアを募集する4つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジェンダー平等を実現する社会づくり ●地域コミュニティが活性化するまちづくり ●サステナブルな観光都市名古屋の実現 ●脱炭素社会をめざすまちづくり
<p>活動の時期</p>	<p>2022年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p>SDGs IDEA FORUM 2022 WEBサイト</p>

